

リンドウ「ふくしまみやび」の出荷前室内開花技術

福島県農業総合センター 作物園芸部花き科
生産環境部流通加工科

1 部門名

花き - リンドウ - その他

2 担当者

矢島 豊・宗方宏之・丹治克男

3 要旨

リンドウ「ふくしまみやび」は、咲き揃い等の品種特性により、ほ場で完全に開花させて収穫することが困難である。そこで、開花途中の花茎を収穫し、出荷前に開花させて高品質な切り花を得る室内開花技術を開発した。

- (1) 開花数が1～2輪になった時点で花茎を収穫し、切り花を調製した後、糖質と抗菌剤からなる催花液の連続吸水处理を開始する。花茎を直立させて常温の室内に静置し、2～3日経過後に出荷する(下写真)。
- (2) 催花液は、蒸留水にグルコース 10g/L、硫酸アルミニウム 0.5mg/L、ケーソン CG(イソチアゾリン系抗菌剤)50mL/Lを添加した。糖質添加量が最も重要であり、試薬や抗菌剤等は他の市販品や水道水で代用が可能と考えられる。
- (3) 開花中に収穫した花茎は、室内開花処理によって花持ちが低下することはない(図1、下写真)。逆に、バケツ等を用いた湿式輸送で開花を進めながら出荷した場合、花持ちの向上が期待できる。
- (4) 室内開花処理中の時間的余裕を活用することで、市場への出荷数量情報の事前提供が容易になる。

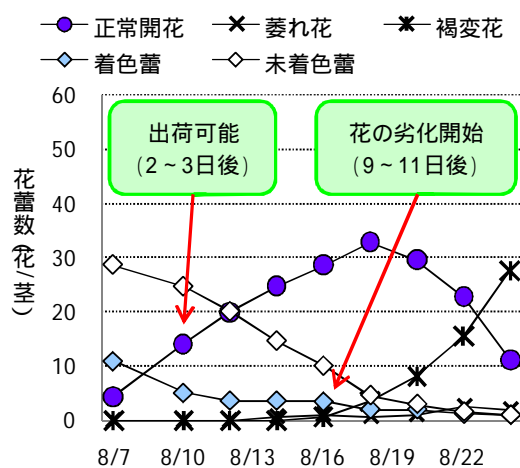
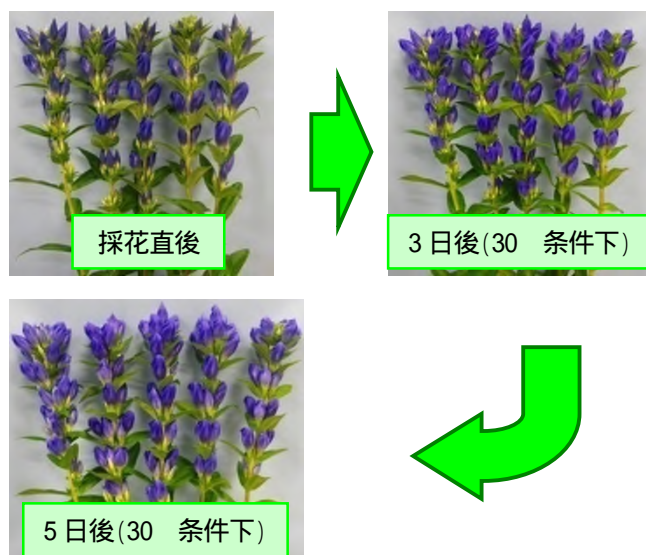


図1 30 条件下における切り花の変化



4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 22 年度～24 年度
- (2) 研究課題名 花持ち保証に対応した切り花品質管理技術の開発
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成 22 年度～24 年度センター試験成績概要